教材名			『ふるさと山梨』の章・ページ
受け継ぐ伝統文化			第３章③　Ｐ．４６～４９
教科（領域）等	社会科	学年（分野）	３年生公民的分野

１．教材のねらいと概要

地域には,そこに住む人々によって形成された社会がある。地域社会の中で人々は暮らし，よりよい生活を送るための取組を行う中で，信仰の対象や地域集団であるグループが築いたものなどをはじめ，様々ものをつくりだしてきた。こうしてうみだされ，継承されてきた「文化財」は，人々の心の拠り所である。

ここでは，国宝はじめ重要文化財等，県内に存在する多様な「文化財」を通して，先人の思いや努力，苦労などに思いを馳せ，ふるさと山梨のすばらしさに気付くことで,生活の場である身近な地域社会への誇りや愛情を育むきっかけとしたい。そして，生徒自らが地域の一員として,文化財の保存・活用・継承をどのようにしていったら可能なのかを考え,地域社会への参画意識を高める機会としたい。

具体的には，建築物や祭りや道祖神などの文化財を通して地理的環境や歴史的背景，文化の特徴をつかませたり,郷土の歴史と中央史との関連を見いださせたり,夢窓疎石や行基などの人物を通して修学旅行の学習とのつながりを持たせたりする。また，過疎化・人口減少など現代社会における課題等と有機的に結びつける中で，課題解決的な学習を実践したい。特に,各地の道祖神祭りや伝統文化は,生活の中にあり，地域の独自性がみられるものなので，家族や地域の方々に話を聞くなど,積極的に地域の人と関らせたい。

２．活用例

教科名等	社会科	単元(題材）名等	くらしに生きる伝統文化
活用場面		活用のポイント	時間
公民的分野・「くらしの中に根付く伝統文化」について学習する。		県内に存在する文化財にはどのようなものがあるのか,P.46～49の写真を参考に考えさせ,興味を持たせる。また,国宝を見て感じたことから，なぜそうなのか，という問いへとつなげていく。 さらに，生活の場である身近な地域にはどのような文化財があるのかを調べ,地理的環境や歴史的背景や地域の人々の思いに触れたり，他地域と比較することで，その地域の特徴を明らかにし，多面的・多角的な見方を養う。今後,それらの文化財を保護・活用・継承していくために私たちがすべきことは何か,について他地域の取組なども参考にしながら考え，地域社会の一員としての自覚を高めさせたい。	５０分

３．キャラクターの投げかけの意図と解答

ページ	投げかけの言葉	意図	解答例
P. 46	桧皮葺の屋根のラインを生み出す工夫は。	県内最古の建物である「大善寺　本堂」に施された一流の技や作った人々の思いやその歴史に触れることで，全国に誇る国宝たる所以を感じ取らせたい。	寄棟造りの屋根の勾配は，１㎜単位でそりが上がるように軒先の勾配に工夫がなされている。
P. 46	くぎが一本も使われていない建築物は。	県内最古の建物である「大善寺　本堂」に施された一流の技や作った人々の思いやその歴史に触れることで，全国に誇る国宝たる所以を感じ取らせたい。	「法隆寺」「清水寺の舞台」など。 釘は錆びて，折れる弱点がある。 また，地震に見舞われても揺れが分散し，倒れないように釘を使わず，組んである。
P. 46	薬師如来像が左手にもっているものは。	「大善寺」が「ぶどう寺」ともいわれる由縁や全国の土木工事に大きな貢献をした僧行基が山梨にも訪れ，その足跡を残していったことを知ることで，中央史とのつながりを考えるきっけとしたい。	「葡萄」 奈良時代，僧行基が甲斐の国を訪れた際，夢の中に葡萄を持った薬師如来が現れたので，その姿と同じ像を刻んで安置した。 また，行基が薬園をつくり，法薬の葡萄の作り方を村人に教えたことが，甲州葡萄の始まりだとも伝えられている。
P. 47	夢窓疎石（夢窓国師）が設計した庭園は。	全国にも目を向け，比べたりすることで，県内に全国に誇れる寺社仏閣であることを理解するとともに，山梨がどのような地域だったのかを考えさせるきっかけとしたい。また，古都京都を訪れる修学旅行の事前学習と関連づけさせたい。	世界遺産に登録されていている京都の天龍寺および西芳寺(苔寺）の他，鎌倉の瑞泉寺の庭園などを設計している。県内では身延町にある覚林寺庭園（町指定文化財）がある。
P. 47	自分が生活している身近な地域にはどんな文化財があるのかな。	自分が住む地域の伝統文化や文化財にはどのようなものがあるのか，疑問を持ち，調べてみたいという気持ちを持たせたい。また,その由来や時代背景などを調べることで，中央史との関連を見出したり，地域に根ざした文化や歴史を知ることへと発展的に捉えさせたい。	国指定・市町村指定の重要文化財などを，地域の人々への聞き取り調査や地域の図書館や文化庁・山梨県庁・各市町村のＨＰなどから調べる。
P. 48	道祖神があるところは，どんなところかな。	身近な石仏である道祖神はいまだに不明な点が残る。道祖神がどのようなところにあり，どのような意味をもつのか，昔の人々の願いなどもあわせて，つかませたい。	村内と村外の境や道の辻，集落の境や村の中心，三叉路などに祀られている。（道祖神信仰の源流については，今なお，研究が続けられている。）
P. 48	何のために道祖神を祀ったのかな。	身近な石仏である道祖神はいまだに不明な点が残る。道祖神がどのようなところにあり，どのような意味をもつのか，昔の人々の願いなどもあわせて，つかませたい。	外部からの厄災の侵入防止や村の守り神，旅や交通安全の神として信仰されたともいわれている。（道祖神信仰の源流については，今なお，研究が続けられているところである。）
P. 48	身近な道祖神祭りには，どんな願いが込められているのかな。	山梨県は，道祖神祭りが盛んに行われている地域である。身近な地域の道祖神祭りの由来を知ると同時に，他地域の祭りはどうか，共通点や違いを見出す中で，なぜ地域により異なるのか，考えさせたい。	五穀豊穣や子孫繁栄，無病息災など人々のさまざまな祈りを受けて，祭りは今もなお受け継がれている。小正月には，多くの道祖神場にオヤマやオコヤなどと呼ばれる大型の飾り物がつくられ，新春の村々を彩る。

P. 49	どうしてこれらを守っていく必要があるのかな。	これまでの先人の苦労や尽力に触れたことで一度失ってしまえば二度とよみがえることのない，現代を生きる私たちにとってかけがえのない共有財産であり，文化財とは何なのか，先人から受け継がれてきた財産を次代にむけて，生徒自身が担い手・守り手となるべき存在であることを自覚させたい。まただからこそ，将来を生きる私たちの子孫のためにも，私たちが守っていかなければならないものであることを捉えさせたい。	文化財は，我が国の歴史の営みの中で，自然や風土，社会や生活を反映して伝承され発展してきたものであり，人々の情感と精神活動の豊かな軌跡を成すとともに，現代の我が国の文化を形成する基盤となっているものである。私たちの歴史の中で失われてはいけない，次の世代に伝えてゆくべき価値を持っている物が文化財であり，一度継承が途絶えてしまうと取り返しのつかないものであるが故に，守り伝えていくことは今を生きる私たちの重要な責務である。
P. 49	これらの文化財を守り，受け継いできた人々の思いや苦労はどのようなものだったかな。	今に伝わる文化財があるということは，必ずそこに守り，継承してきた人々の存在がある。苦労をしてまで保護・活用・継承してきたのはなぜか等について考えさせたい。また，今後どうしていったらよいのか，につなげたい。	以下の視点を参考にしたい。 ・文化財の日常的な維持管理，適時適切な修理・修復・保存等の措置に尽力された人々がいたこと。 ・無形文化財や民俗文化財などの文化財・伝統文化は地域住民の手によって受け継がれ，今に至っていること。 ・確実に次世代に継承していくために，国・県の指定・選定・登録制度などを活用し，保存・管理の徹底を図ってきたこと。
P. 49	○長い先人たちが大事に守り，伝承してきた文化財を今後，私たちはどうすべきでしょうか。 ○それらを守り，伝えていくとすれば，どうすれが可能か，みんなで考えてみましょう。	伝統文化の学習のまとめ。学習課題の振り返り。 文化財を保存・活用・継承することがなぜ大切なのか，いかに大事なのかを理解させ，どうすればそれが可能なのかを，地域社会に生きる一員として主体的に考えさせたい。	文化財保護法の制定，ユネスコ世界文化遺産・無形文化遺産への推薦・登録など国レベル・世界規模で保存や継承を考えるだけでなく，地域の一員として地域にある文化財を知り，それらを後生に確実に伝えていくためには，どんな課題があるのか，どうすれば可能なのか，他地域の取組も参考にしながら，私たちはすべきこと・できることはどんなことか，主体的に考え，書く。 （課題例）過疎化や少子高齢化に伴う担い手不足など。（他地域の例）観光資源として生かす，学校で授業の一環として担い手を養成するなど。

４．写真・資料の補説

(1) ①～⑤（P. 46）

県内の国宝５点については，小学校版「ふるさと山梨」にも紹介されており，知っておいてほしいものである。①・②については普段，無料で見ることができる。特に①の大善寺については，寺社の方に無料で説明してもらえる。③・④・⑤については所蔵者と所蔵場所が異なっているため，普段見ることはできない。

(2)大善寺本堂（P. 46）

大善寺は真言宗智山派の寺院である。薬師堂には，1286（弘安９）年３月16日の刻銘があり，元寇（弘安の役）の数年後に建てられ，築710年以上にもなる。山梨県では一番古い建物である。大きさは17.4メートル四方あり，鎌倉時代の建築の力強さをよく現している。内陣には厨子（国宝）が置かれている。薬師如来を祀り，その両側には日光菩薩，月光菩薩，更に十二神将を配している。奈良時代僧行基が甲斐の国を訪れたとき，夢の中に，右手に葡萄を持った薬師如来が現れたので，その姿と同じ像を刻んで安置したのが，大善寺であると言われている。行基が薬園をつくり，法薬の葡萄の作り方を村人に教えたことが，甲州葡萄の始まりだとも伝えられている。戦国時代，徳川連合軍に破れて敗走した武田勝頼が岩殿城で再興を図るときに，途中で訪れ，戦勝を祈願して一夜（自刃する前夜）を明かした寺である。しかし，武田家再興がかなわないと見た家臣の大半は夜半に離散したという。その一部始終を目撃した理慶尼が記した理慶尼記（武田滅亡記）が今なお大善寺に保存されている。

幕末にはこの地で近藤勇率いる甲陽鎮撫隊が新政府軍と戦ったことがある。甲陽鎮撫隊は大善寺に入って戦おうとしたが，由緒ある古刹と知り，憚って柏尾の深沢左岸を拠点として戦ったが，三方から攻撃を受けて敗走した。

(3)清白寺仏殿（P. 47）

臨済宗妙心寺派の寺院である。寺伝によると，足利尊氏が夢窓疎石を開山として1333（正慶２）年に創立したと伝えられている。仏殿はわが国の仏教建築の主な様式の一つである禅宗様建築の代表的遺構として知られ，「方三間裳階付仏殿」とよばれる形式の典型例でもある。同様の形式をもつものの中で最小規模にまとめられている他，内部に文様彩色と丁寧な漆塗が施されている点は他に例がない。鎌倉から室町時代は，貴族や武士の信仰を得て，各地に禅宗寺院が盛んに創立されたが，その後衰退したため，現存する遺構のうち室町中期までさかのぼるものは極めて少なく，禅宗仏殿の古い様式を伝える一例として価値は高い。

(4)小桜韋威鎧兜大袖付（こざくらがわおどしよろいかぶとおおそでつき）（P. 47）

この鎧は，甲斐源氏の始祖新羅三郎義光以来，武田氏の重宝として相伝され「楯無」と呼ばれた。信玄のときに甲府の鬼門鎮護のため塩山の上於曽村管田天神社に納め，一門の於曽氏に護らせた。武田氏滅亡の際，家臣田辺左衛門尉がこれを向嶽寺の大杉の下に埋めたが，家康が掘出し再び同社に納めた。その後，盗難にあい大破したが，江戸時代に復旧修理されたことが威毛の裏に墨書してある。

(5)絹本著色夏景山水図(けんぽんちゃくしょくかけいさんすいず）（P. 47）

縦126.9cm横54.4cmの図である。中国北宋時代のものと推定されている。京都金地院の所蔵する秋景山水図，冬景山水図とほとんどその大きさや描法を同じくし，しかも画上の鑑蔵印まで等しくするもので，もと四季山水図（春景山水図は無し）の分かれたものであると考えられる。

(6)　絹本著色達磨図（けんぽんちゃくしょくだるまず）（P. 47）

向嶽寺に古くから伝わる縦123cm横61.2cmの達磨像である。わが国の数多い達磨像図の中でも特に有名で，且つ禅宗美術史上重要な位置を占めている。鎌倉時代に南宋画の影響を強く受けた日本の画人が描いたものと思われ，わが国における南宋画様式の早期受容の一端が伺える貴重な文化財である。達磨像の肉身は，やや黄色身を帯び，朱色の頭巾と法衣の用筆と相まって，生き生きとした面貌をとらえている。四方を睨む両眼は俗に「八方にらみの達磨」と言われている。

(7) 道祖神の４つの種類（P. 48）

山梨県は，長野県，群馬県などと並んで道祖神信仰が盛んな県である。また，その道祖神信仰は，とてもバリエーションに富んでいる。その一つが，ご神体の形である。道祖神の神体は多くの場合石造物で，まれに木造や藁製の人形道祖神も存在する。県内の神体を大きく分類すると，「丸石」・「双体像」・「文字碑」・「石祠」に分けられる。特に丸石道祖神は山梨県の代表的なものである。その分布は国中東部を中心に全県的に見られる。石祠の神体であったり，双体像や石祠・文字碑の脇に置かれるなど，他の石造物の神体としてまつられることも多い。長野県に多いとされる双体道祖神は，山梨県での分布は限定的である。県北部と河内地方に多く見られ，それから南に向かって続き，静岡県から神奈川県方面に分布している。道祖神祭りの内容についても，厄除けや子授け，豊穣祈願など，人々のさまざまな願いがこめられており，多様な祭礼形態をみることができる。その一方で，特定の道祖神の神体をもたない地域や，祭りを行わない地域があるなど，山梨県内でも，それぞれの地域ごとに独自の民俗世界が築かれている。

さらに，道祖神については，まだまだ不明な点が多く，山梨県の特色である「丸石」の道祖神についても，なぜ「丸石」なのかはっきりしていないのが現状である。丸石は，河川を流れてくる過程でつくられたという説もあれば，女性をかたどったものであるという説もある。また，中沢厚氏は，丸石や丸棒は，石器時代は生産具であり，信仰具でもあり，山梨県の丸石道祖神は，石器時代の丸石信仰（生活集団の繁栄を保証し，生殖神，農神でもあった）の遺物ではないかと述べている。（「山梨県の道祖神」有峰書店・中沢厚著より）

＊写真の「文字碑」の所在地が富士吉田市松山となっているが,正しくは富士吉田市緑ヶ丘に所在している。

(8) 道祖神祭り（P. 48）

ここでは，「富士川町の櫓」と「忍野村忍草の神木」と「笛吹市石和町市部仲町のオフネ」を掲載した。地域や地区・集落により違いはあるものの，道祖神信仰をもとに，人々の願いが加わり今に受け継がれ，地域の伝統行事となっているものである。生徒の身近な地域の道祖神祭りとの違いや共通点を見いださせるとともに，地域独自の文化にも目をむけさせ，ゆくゆくは文化継承の担い手となっていくことも感じ取らせたい。

道祖神祭りについては，中沢新一氏は，「ドンド焼き」などの火を焚く行為は，道祖神がそもそも外部からの邪気を払い，さえぎると同時に，外部の異質な力のみなぎる世界に触れるために悪をも内在させるという両義性を備えており，その悪を滅ぼすために火を焚き，焼くのではないかと述べている。（「丸石神　庶民の中に生きる神のかたち」木耳社・中沢新一著）

各市町村発行の「市町村誌」の民俗編などにその由来等が掲載されているが，ここでは，各市町村の文化財担当や道祖神祭りを行っている地域の方々への聞き取り調査などを積極的に行わせたい。

(9) 甲斐犬（P. 49）

甲斐犬は，日本犬の一種。大正末期頃，虎毛の日本犬として発見された。虎毛は山野で狩りをするときの保護色となる。山梨県の甲斐地方で，古くからイノシシ猟やカモシカ猟で活躍していた犬種であり，1943（昭和９）年に秋田犬につぐ２番目に，国の天然記念物に指定された。体高は32～51cm，体重は12～24kg。

日本犬とは，古くから日本に住んでいる犬のことであり主に，秋田犬・甲斐犬・紀州犬・柴犬・四国犬・北海道犬の６犬種を指す。昭和６～12年の間に順次，国の天然記念物に指定され，明治の文明開化以降，欧米から輸入されるようになった外国の犬との混血による消滅を防ぐため，保護の対象となった。

(10) 木喰上人作の仏像（P. 49）

木喰上人は1718（享保3）年，甲斐国東河内領古関村丸畑（現在の山梨県南巨摩郡身延町古関字丸畑）の名主伊藤家に生まれる。五穀，塩，火を通した食物を断つ修業「木食戒」を受けた後，日本各地を旅して千体以上ともいわれる仏像を彫った。「みな人の こころをまるく まん丸に どこもかしこも まるくまん丸」と歌を詠み，その歌を表すような丸い顔に優しい微笑みをたたえた仏像を彫った。民芸運動を起こした柳宗悦（やなぎむねよし）が見い出し，「微笑仏」と称される。木喰上人生誕の地である身延町丸畑にある「木喰の里微笑館」で，木喰上人作の仏像やこれに関わる古文書や資料を見ることができる。

(11) 山高神代ザクラ（P. 49）

樹齢約2000年，日本最古の桜とも言われている山高神代ザクラは，武川町の実相寺境内にそびえるエドヒガンザクラで，その想像を絶する悠久の時を超えて咲き続ける様は，神々しく，見る人は思わず手を合わせるとも言われる。樹高10.3m，根元・幹周り11.8mもあり，日本で最古・最大級の巨木として，同様に国指定天然記念物に指定されている三春滝ザクラ（福島県），根尾谷淡墨ザクラ（岐阜県）と併せて日本三大桜とも称されている。1922（大正11）年に国指定天然記念物第1号となった。 また，平成2年には「新日本名木百選」にも選定されている。

(12) 天津司の舞（P. 49）

地元では，オテヅシさん，デッツクさんともよんでいる。往古は旧暦７月19日に小瀬村の17戸が行う祭りであった。現在は４月10日頃の日曜日に，ふだんは甲府市小瀬町の天津司社に安置されている九体の人形が，下鍛冶屋町の涼宮諏訪神社へ渡って，境内に設けたオフネとよぶ幕囲いの中で田楽芸を演ずる。当日は昼頃から天津司社で神事があり，その後赤布で顔を覆った人形の行列が諏訪神社へと進んでいく。人形が諏訪神社に至る道をオナリミチといい，かつてはほとんどが田のあぜ道だったが，今日この道はかなりの部分は小瀬スポーツ公園の中に入っている。

(13) 赤沢伝統的建造物保存地区（P. 49）

赤沢は中世のころから聖地身延山と霊場七面山とを結ぶ参道の宿場として知られてきた。 江戸初期，徳川家康の側室お万の方の功績により，七面山の女人禁制が解かれ，身延講などが盛んになるにつれ，七面山への参拝者が急増し赤沢の旅籠，強力，駕籠人足を利用する人たちも多く，宿場として活気があった。大正から昭和期にかけて身延線の開通とともに参詣客も急増し，赤沢宿も隆盛をきわめたが，迂回道路の整備や交通の便がよくなるに従い，昭和30年代ころより宿を利用する者は激減している。現在も往時の景観がそのまま残っており，復元された石畳の道を散策できる。

５．参考文献・関連施設等

参考文献名	発行所	著者・編者	発行年
山梨県の文化財ー文化財集中地域特別総合調査報告　第23集ー	文化庁		
山梨県史概説編　山梨県のあゆみ	山梨日日新聞社	山梨県	2008年
山梨県史文化財編	山梨日日新聞社	山梨県	1998年
山梨県のあらまし2016	山梨県広聴広報課	山梨県広聴広報課	2016年
山梨100選	山梨日日新聞社	山梨県	
山梨県史		山梨県	2003年
市町村誌		各市町村	
山梨県の祭り・行事	山梨県教育委員会	各市町村	
やまなしの道祖神祭り	山梨県立博物館	山梨県教育委員会	1999年
山梨県の道祖神	有峰書店	中沢厚著	1973年
丸石神　庶民の中に生きる神のかたち	木耳社	中沢新一著	1980年
山梨県立博物館　常設展示案内			
山梨の歴史景観	山梨日日新聞社	山梨郷土研究会	2003年
祈りのかたちー甲斐の信仰ー	山梨県立博物館	山梨県立博物館	
木喰展ー庶民の信仰・微笑仏ー	神戸新聞社		
木喰仏	大阪東方出版	寺島 郁雄（写真）	2004年

関連施設名	住所	電話
大善寺	甲州市勝沼町勝沼3559	0553-44-0027
清白寺	山梨市三ケ所620	0553-22-0929
菅田天神社	甲州市塩山上於曽1054	0553-33-4006
久遠寺	身延町身延2567	0556-62-1011
向嶽寺	甲州市塩山上於曽2026	0553-33-2090
山梨県立博物館	笛吹市御坂町成田1501-1	055-261-2631

参考ホームページ
文化財／文化庁→文化財の紹介　→　概要・種類別文化財の詳細
山梨県　→　くらし・防災　→　文化芸術　→　文化財　→　山梨の文化財ガイド